

乳腺外科 検診とタイアップして早期発見に努めています

柴崎 正幸（外科部長）



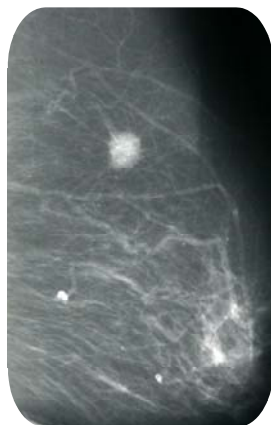
柴崎部長

マンモグラフィー精度管理中央委員会の認定医師、認定技師さらに日本超音波医学会の認定医師、認定技師が乳腺の検査を行い、質の高い診断を可能としています。

乳がんの治療

乳がんの治療はその進行度に応じて手術・内分泌療法・化学療法（抗がん剤による治療）、放射線療法を組み合わせで行います。

手術では乳房の形が残る乳房温存手術を積極的に行っており、その整容性の良さに患者様から満足の声をいただいております。乳がんは治療後10年まで再発の危険を伴うため、術後のケアも大切です。手術時に取った組織標本を詳しく分析し、手術だけで治癒するかどうかを検討し、必要に応じ、放射線療法、内分泌療法を行います。また、再発のリスクの高い患者様には抗がん剤を用いた化学療法を行っています



マンモグラフィー
スピキュラを有する
典型的な乳がん

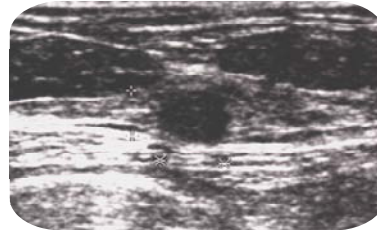
乳がんは日本でも欧米に追随して患者数が増加しており、その治療は社会的ニーズが高まっているため、当院でも重点疾患と位置づけ診療にあたっています。

当院は日本乳癌学会関連施設に認定されており、専門医が診療にあたります。またマン

が、入院せずにできるだけ外来で治療ができるよう工夫しております。

マンモグラフィーと エコーを組み合わせ

当院の健康管理センターでは年間5000人の乳がん検診を行っております。こうした乳がん検診の実績をもとに、乳腺外科では微小乳がんの診断にも力を入れております。最近では乳がんの画像的特徴がでにくい10mm以下の乳腺腫瘍も、豊富な経験から悪性化の兆しを見逃さず、



乳腺超音波
直径6mmの微小乳がん

積極的にエコーでガイドしながら腫瘍内部の細胞を穿刺吸引し、細胞診を行って微小乳がんを発見しております。

一貫した診療体制で

このように乳腺外科では微小乳がんの発見から外科手術、術後補助療法、術後経過観察に至るまで乳がんの治療に必要な一貫した診療体制を整えております。

また進行乳がん、再発乳がんの際に行う抗がん剤の治療では、起こりうる副作用に対する迅速で適切な対応等幅広い総合的な診療能力が必要であり、当院の総合病院としての強みを発揮できる疾患と考えています。

乳腺は体表にあり、自分自身でもその異常に気づく唯一の悪性疾患です。自己検診をおこない、もしも異常を感じた時にはためらわず乳腺外科を受診してください。

担当医師：柴崎正幸、日下浩二

乳腺外科内線（2120）

乳腺外科についての詳細は当院ホームページをご覧ください。

<http://www.shahochu.com/index.htm>